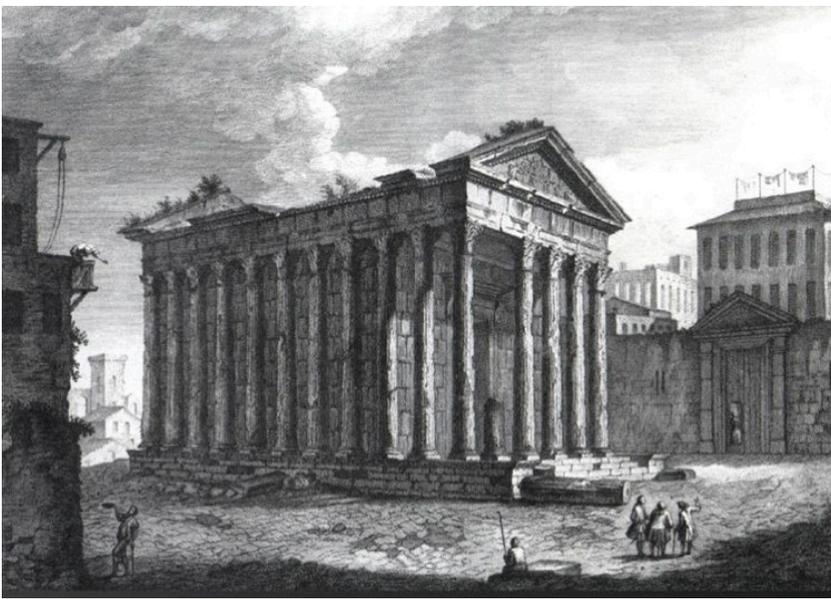




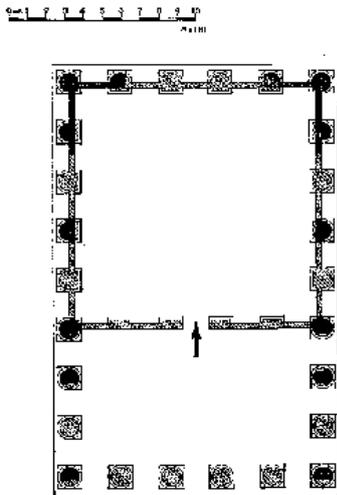
航空写真

ポッツォーリの全景。写真下はリオーネ・テッラ。○で囲まれた部分がポッツォーリ大聖堂。



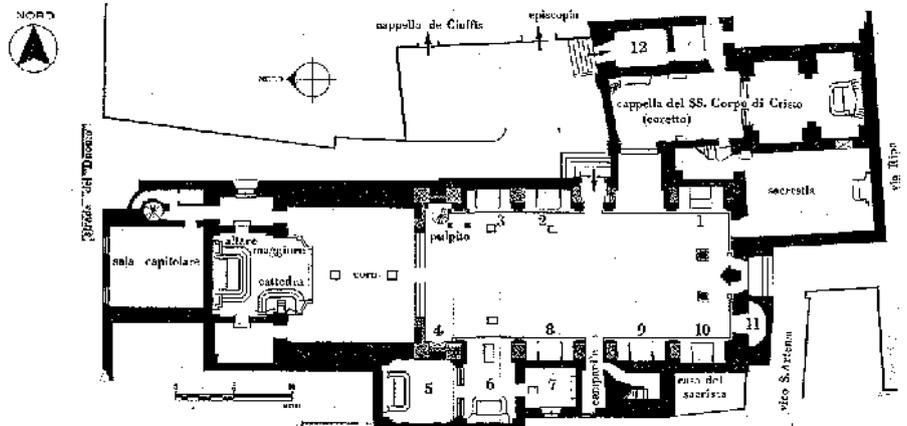
アウグストゥス神殿復元図

「ポッツォーリ市の疑似周柱式の古代神殿の眺め」(フィリッポ・モルガン、1766年)



Rilievo planimetrico del tempio di Augusto con l'indicazione, e tracciatura, delle parti mancanti.

アウグストゥス神殿の復元平面図 (F.Castagnogli, 1977)



Rilievo planimetrico della Cattedrale prima dell'incendio del 1964 con l'indicazione, e tracciatura, delle parti superstiti del tempio di Augusto.

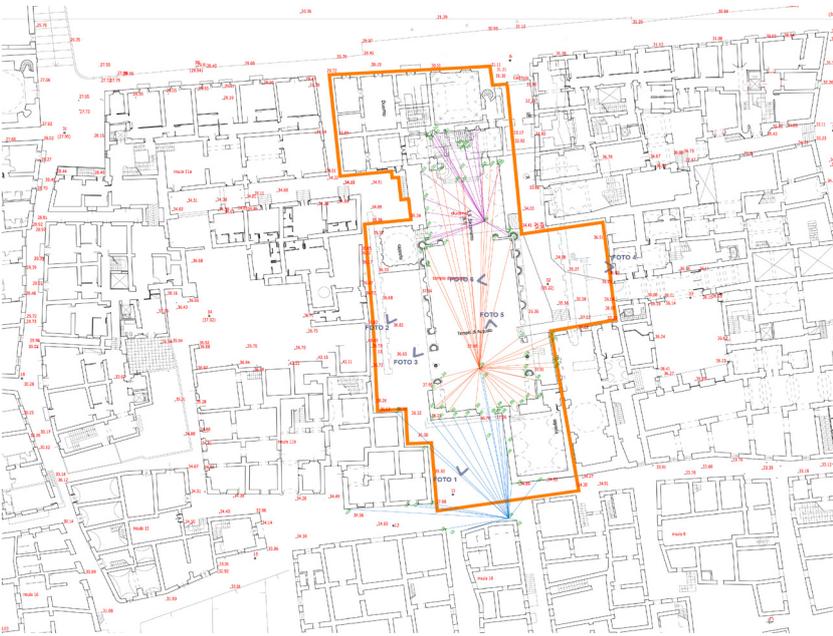
Tav. XII

火災前の大聖堂平面図 (1964年当時の状態) (F.Castagnogli, 1977)



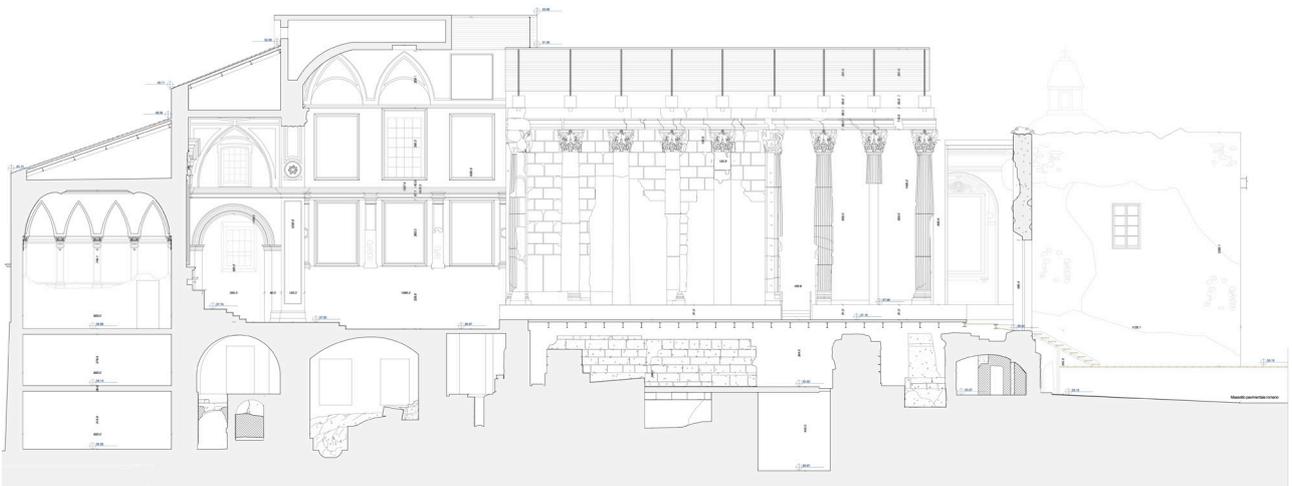
大聖堂

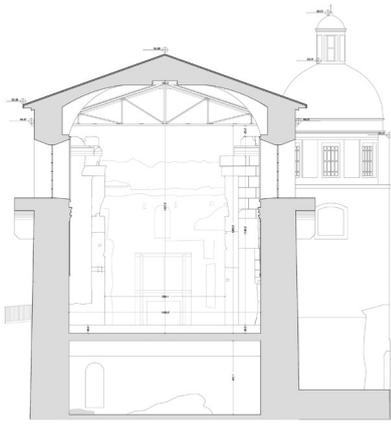
火災（1964年5月16日）により
焼け落ちた身廊の天井。



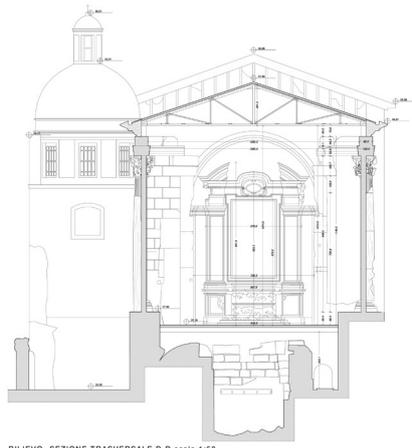
大聖堂

再生工事前の実測平面図（左）と
長軸方向断面図（下）。デ・フェ
リーチェによって行われた修復工事
（1968年）の内容が描かれている。
（Bardeschi, 2004）

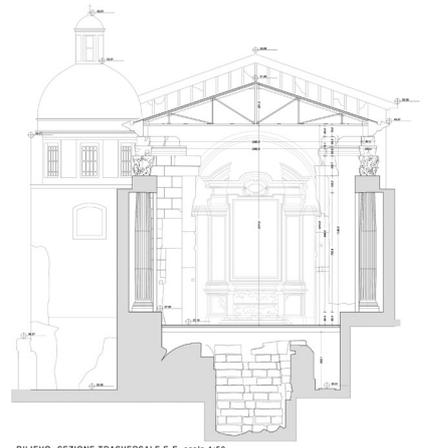




RILIEVO- SEZIONE TRASVERSALE C-C scala 1:50



RILIEVO- SEZIONE TRASVERSALE D-D scala 1:50



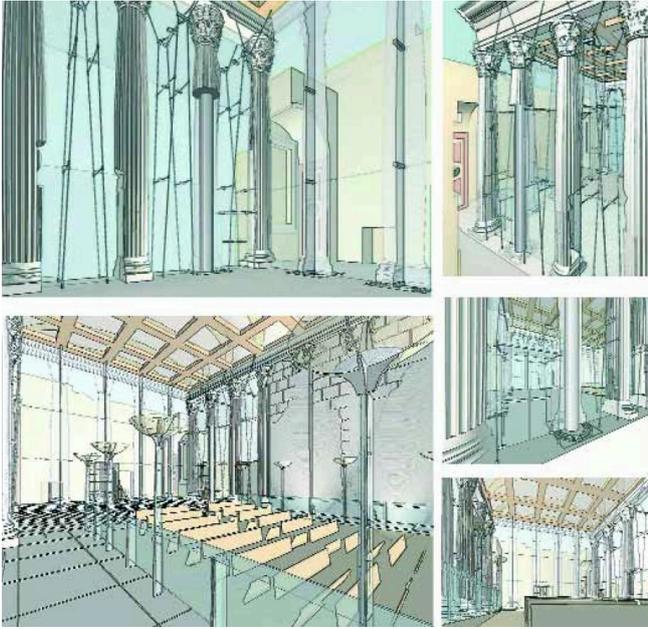
RILIEVO- SEZIONE TRASVERSALE E-E scala 1:50

大聖堂

再生工事前の単軸方向断面図（上）。
 仮設屋根および床スラブ、修復された円柱の関係が分かる。(Bardeschi, 2004)



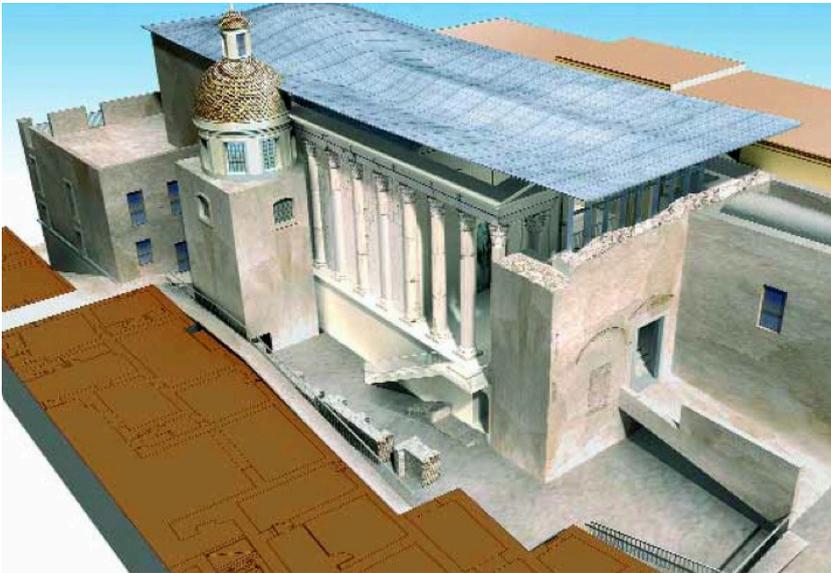
中断された修復工事後の様子(1980年代)。



ポツツォーリ大聖堂再生設計競技
最優秀賞

1. マルコ・デッツィ・バルデスキ
再生羊皮紙の讃辞

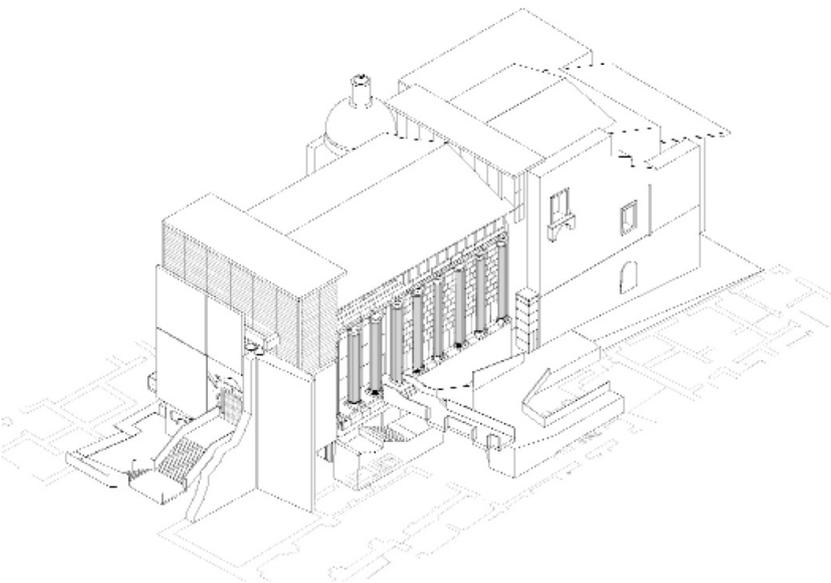
ELOGIO DEL PALINSESTO



第2位

2. グイド・バトッキオーニ
空と陸との中で

IN CIELO E IN TERRA



第3位

3. ルーカ・ゼヴィ

物事には方法がある

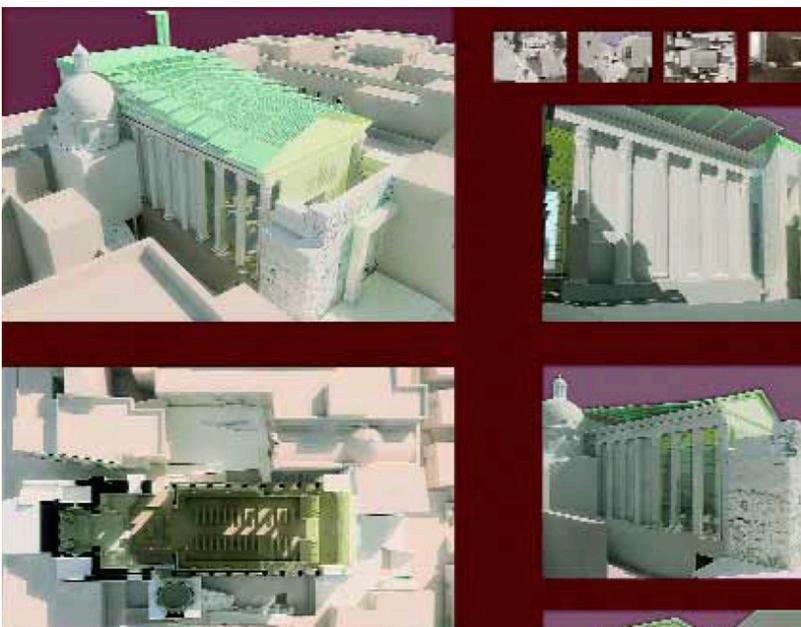
EST MODUS IN REBUS



4. アレッサンドロ・アンセルミ
地霊
GENIUS LOCI



5. コッラード・ボツオーニ
権力の頂点の甘味
DULCE AD SUMMAS EMERGERE
OPES



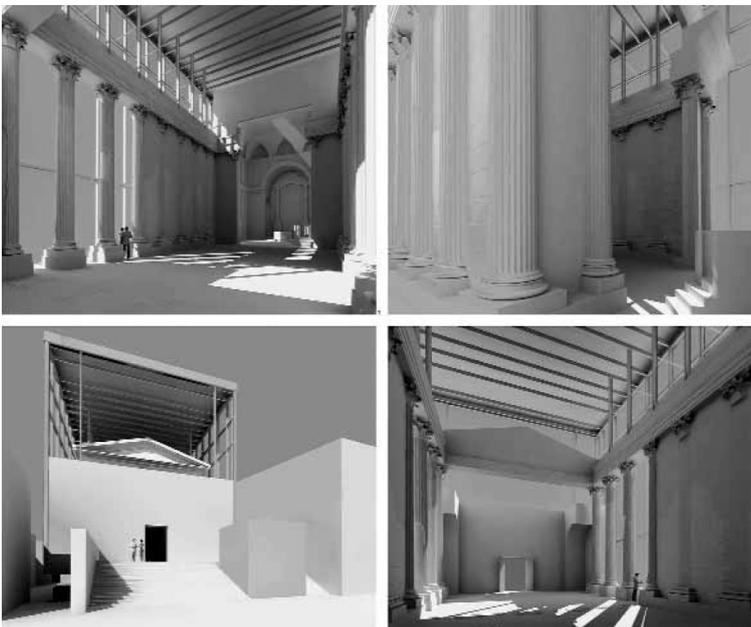
6. ステッラ・カシエッロ
狂った飛行のために翼をつくる
FACEMMO ALI AL FOLLE VOLO



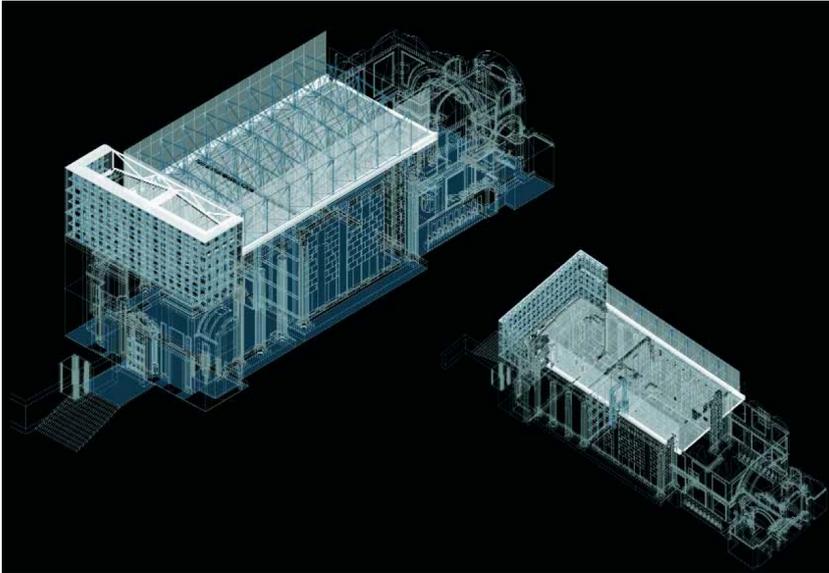
7. デヴィッド・チップパーフィールド
三人称
TERTIUM QUID



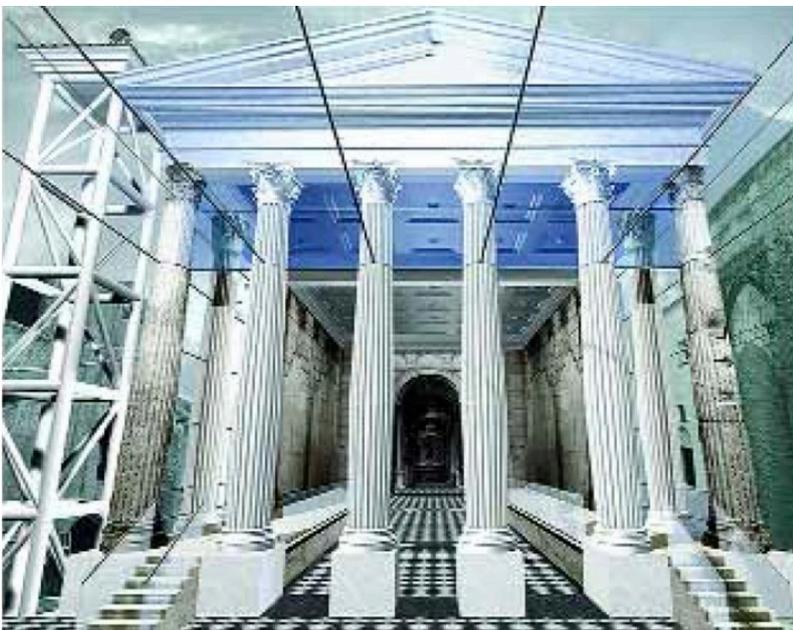
8. コルヴィーノ+ムルターリ
新しい革袋に入れた新しいワイン
VINO NUOVO IN OTRI NUOVI



9. パスクアーレ・クロッタ
実在と架空のゲーム
LUDUS ABSENTIAE ET
PRAESENTIAE



10. ドナテッラ・フィオラーニ
魅力ある記憶の保持
RETENTA AD MEMORIAM
VENUSTATIS



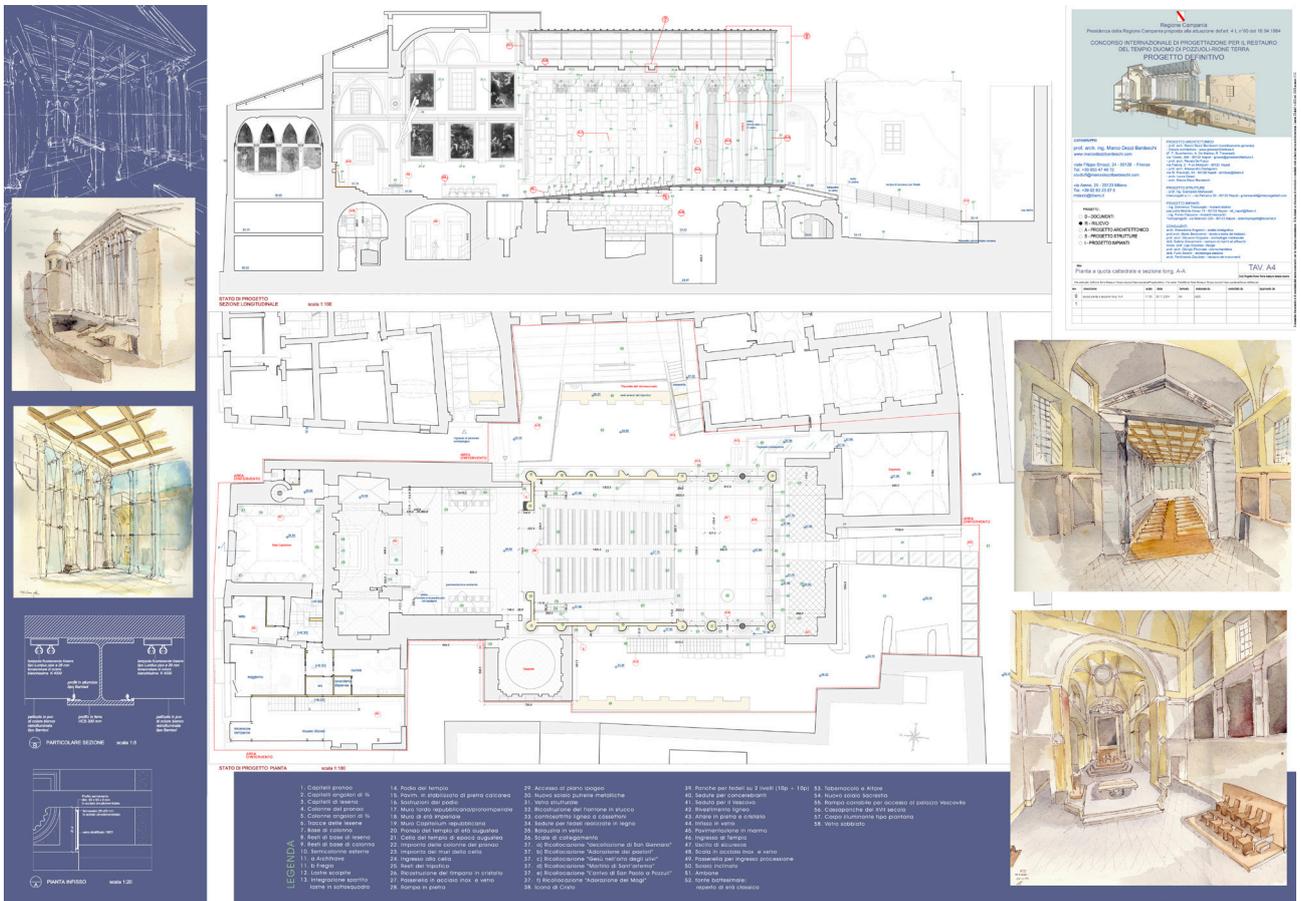
11. パオロ・マルコーニ
神殿 / 大聖堂：対立要素の混成
TEMPIO / CATTEDRALE :
COMPOSITO OPPOSITORIUM



12. トビア・スカルパ
世話を焼くこと
AVENDO CURA



ポツォーリ大聖堂再生コンペ 最優秀案 (M.D.Bardeschi, 2003)

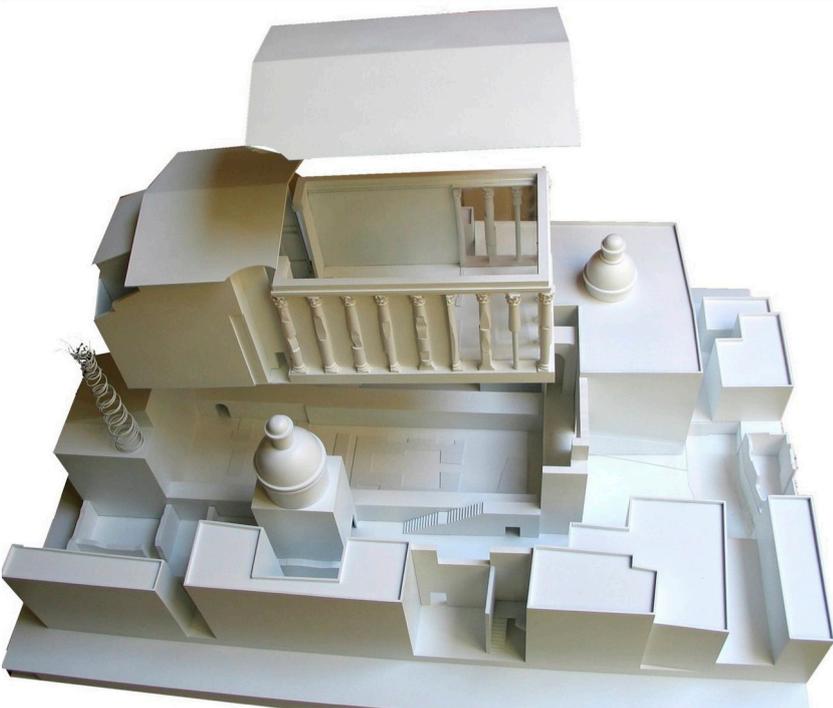


ポツォーリ大聖堂再生コンペ 実施計画案 (M.D.Bardeschi, 2004)



大聖堂

再生工事開始後の現場写真。



模型写真

コンペ案の模型写真。実施計画案では鐘楼のデザインが変更された。



リオネ・テッラ遠景

丘陵側から見たリオネ・テッラ。写真右手の白い屋根が大聖堂。



リオネ・テッラ遠景

海岸から見たリオネ・テッラ。中世期にカステッロ（城塞）と呼ばれた歴史的中心地区の姿。



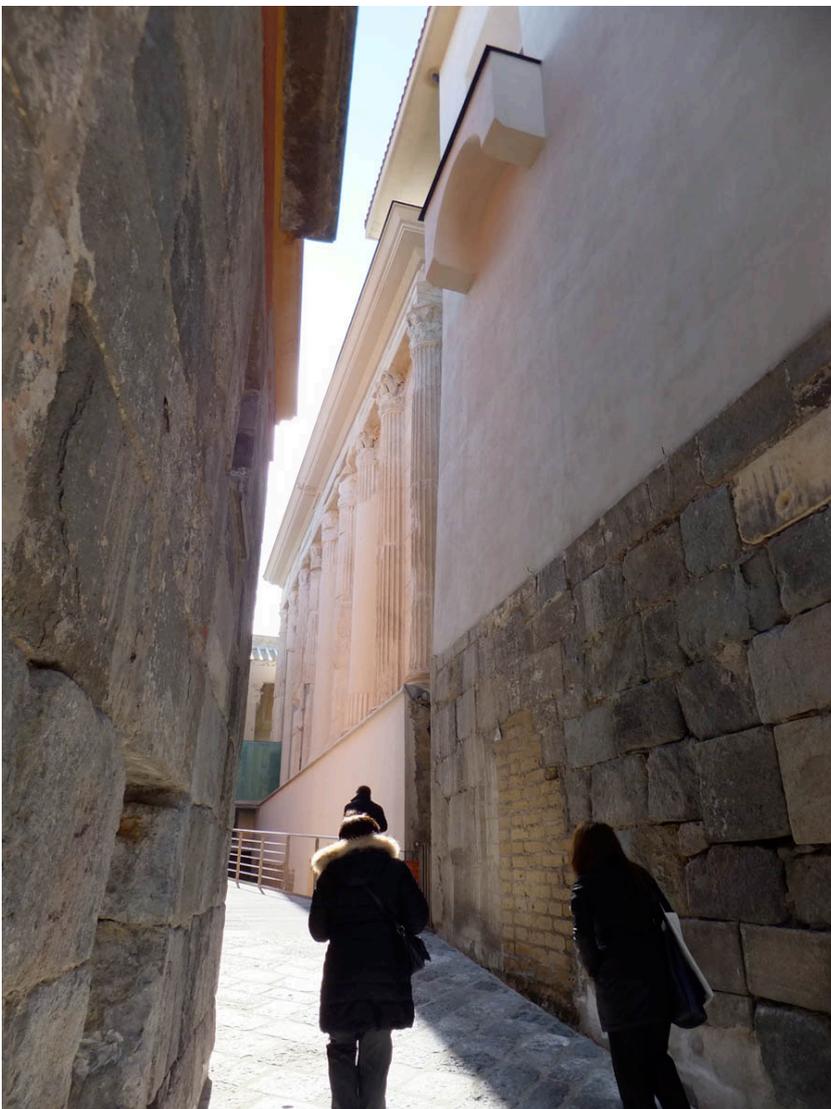
リオネ・テッラ入口

市内へは高架橋を渡って入る。市街入口に並ぶ修復済みのパラッツォ。



リオネ・テッラ市内

ドゥオーモ通りから東側(市街入口)を見返す。修復が完了した、無人の住宅が並ぶ。



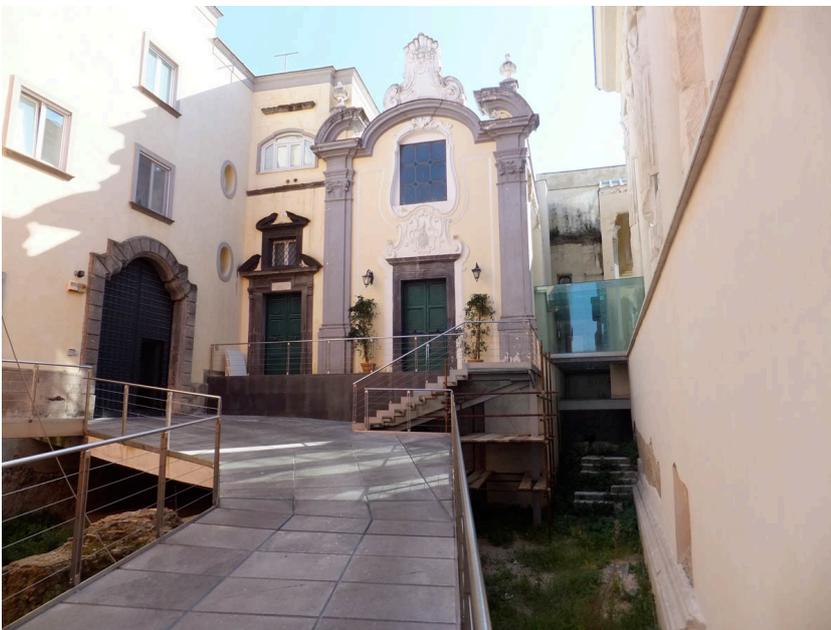
リオネ・テッラ市内

ドゥオーモ通りから司教館通りを進む。右手に大聖堂=ローマ神殿の円柱が並ぶ。



リオオーネ・テッラ市内

ドゥオーモ通りから北側の市街を望む。写真左側のマリーナに面して、ローマ期の市場 Macellum がある。



司教館前

司教館前の小広場。左手が司教館。中央は SS. コルポ・ディ・クリスト礼拝堂。大聖堂は写真右手。司教館前はローマ期の地表レベルまで発掘されており、デッキから遺構を見ることが出来る。



司教館前

建物前の通路から遺構を見下ろす。



大聖堂外観

司教館通りから見たローマ神殿の神室外壁。柱間の壁は石積みではなく、擬似的に目地を刻んでいる。



大聖堂外観

SS. コルポ・ディ・クリスト礼拝堂と大聖堂入口の関係。大聖堂のファサードは、司教館と反対の南側を向く。



大聖堂外観

ローマ神殿の屋根は白大理石の瓦で葺かれている。デ・フェリーチェによる鉄骨造の屋根構造を保存する。神殿の正面ポルティコをガラス壁で封鎖し、内部空間に仕立てているのが分かる。



大聖堂外観

大理石の白い屋根瓦は、現地で発掘された断片に基づく復元。中空アルミパネル上に葺かれた瓦は厚 5mm と軽量化されている。



大聖堂外観

神殿とバロック聖堂内陣部との屋根の関係。内陣部の屋根は素焼きの瓦葺き。周囲の歴史的景観に配慮して、大聖堂の空調設備機器は小屋裏内に収められたため、屋根上には通気用のダクトが突き出す。



大聖堂外観

司教館屋上から見た大聖堂のファサード上部。手前のドームはSS. コルポ・ディ・クリスト礼拝堂のもの。ローマ神殿のペディメントは磨りガラス上のグラフィックによって、バーチャルに復元されている。



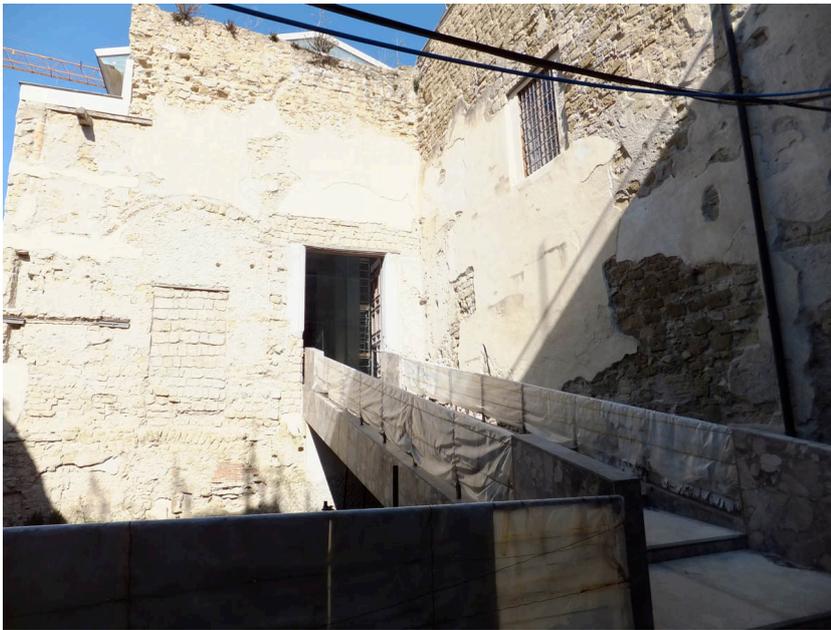
大聖堂外観

司教館屋上から見た大聖堂ファサードの詳細。ガラスを用いたペディメントの復元と円柱・エンタブラチュアとの取り合い。



司教館内部

大聖堂が工事中のため、毎週日曜のミサはこのSS. コルポ・ディ・クリスト礼拝堂で上げられる。ミサの時のみ、旧市民はリオネ・テッラに一時的に戻る事が出来る。



大聖堂外観

バロック聖堂のファサード。ファサード手前はローマ期の地表レベルまで発掘されており、新設された通路を渡ってアクセスする。



大聖堂外観

バロック聖堂のファサード背後。木製扉はオリジナルのもの。装飾はほとんど残っていない。



大聖堂外観

復元されたローマ神殿のファサードを見上げる。ペディメントの形状を磨りガラスを使って復元し、大理石の残存部との区別を明確にしている。



大聖堂外観

バロック聖堂のファサードとローマ神殿ファサードとの関係。両者の間には小広場を設けて、空間をとる。



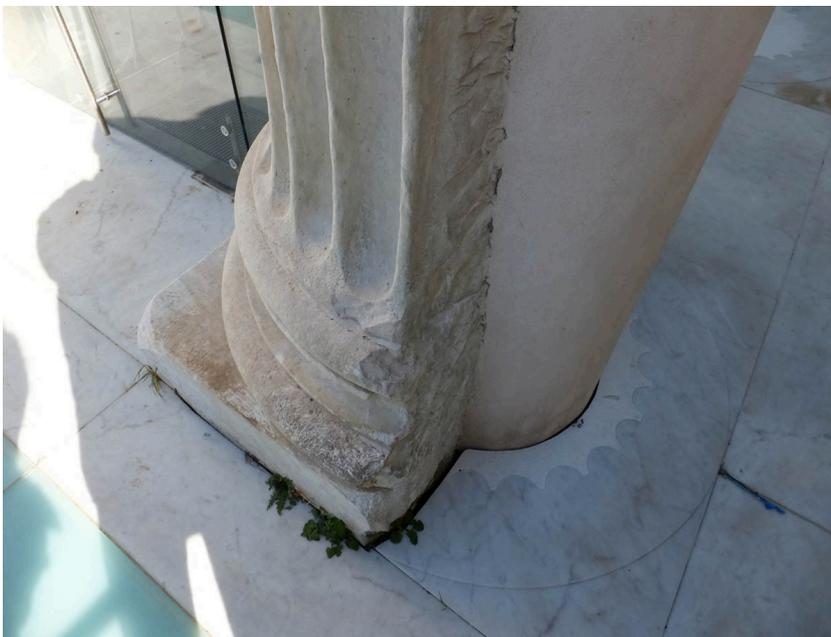
大聖堂外観

ガラス壁で内部空間とされたローマ神殿と、断片のまま保存されたバロック聖堂の礼拝堂。礼拝堂裏には聖具室がある。写真奥は司教館とSS. コルポ・ディ・クリスト礼拝堂。



大聖堂外観

復元されたローマ神殿ファサードの詳細。角の円柱がバロック期の改修によって削られている。



大聖堂外観

RC造のシャフトによるローマ神殿のオリジナルの円柱の補強。床面には礎盤と柱身の平面を刻み、イメージを復元している。



大聖堂内観

ガラスのファサード内部。失われた円柱の位置には、床面に礎盤および柱身の平面を刻むと共に、ガラス面にサンドブラストで円柱の立面をプリントしている。リブガラスは円柱の立面を模す。



大聖堂外観

透明ガラスで内部空間を切り取ったローマ神殿と、バロック聖堂の風化した断片とのコンポジション。



大聖堂外観

神殿手前には基壇の一部をなす石段が復元されている。バロック聖堂のモザイク床は、そのまま残されている。



大聖堂内観

ガラス壁を支えるリブガラス(方立)も、円柱の形状を模している。失われた円柱のバーチャルな復元。



大聖堂外観

外側から見た床面およびガラス壁に見る円柱のイメージ。



大聖堂内部

天井見上げ。柱のモジュールに合わせた格天井のグリッド。ダウンライトと空調吹き出し口を設ける。格間にはトロンプレイユ（だまし絵）でバロック聖堂のヴォールト天井が描かれる予定。



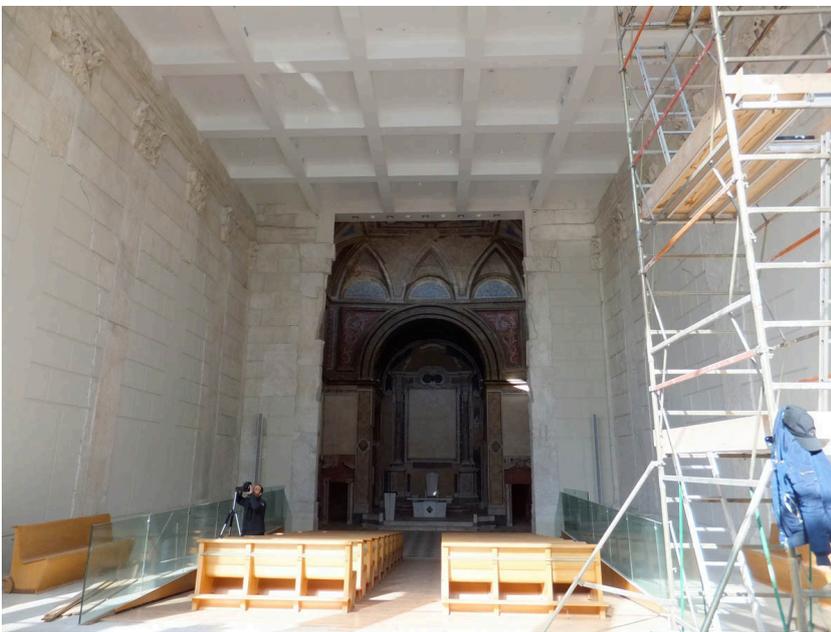
大聖堂内部

ガラス壁は枠をつくらず、ガラスの方立てとテンションワイヤで支持し、透明感を強調する。正面のRC造シャフトで復元された円柱は、デ・フェリーチェによるもの。ガラス壁に円柱のシルエットを再現している。



大聖堂内部

バロック聖堂では、ローマ神殿のポルティコと神室の境は撤去され、一体の空間として使われていた。デ・フェリーチェによる再生は神殿の空間構成を復元し、可視化した。



大聖堂内部

新設された格天井は、ローマ神殿のポルティコから神室までを一体に覆う。正面奥にバロック聖堂の内陣部が見える。



大聖堂内部

ローマ神殿の神室背後に空けられた開口より、バロック聖堂の内陣部を見る。両側に残された壁が、あたかも劇場建築のプロセニウム・アーチのように見える。



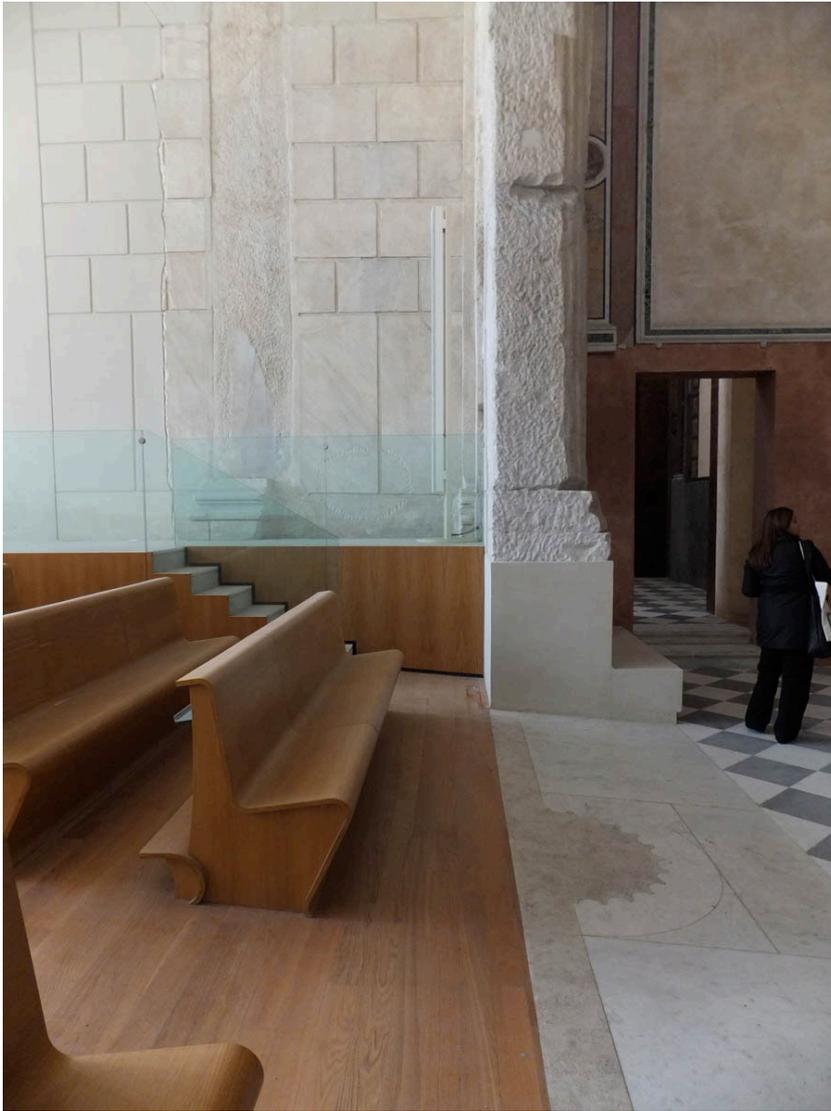
大聖堂内部

大聖堂の床はファサード付近ではローマ神殿の床レベルを復元している。中央の信者席は内陣に向かっては傾斜を付ける。両側は水平のままとし、地下の見学コースの天井高を確保する。



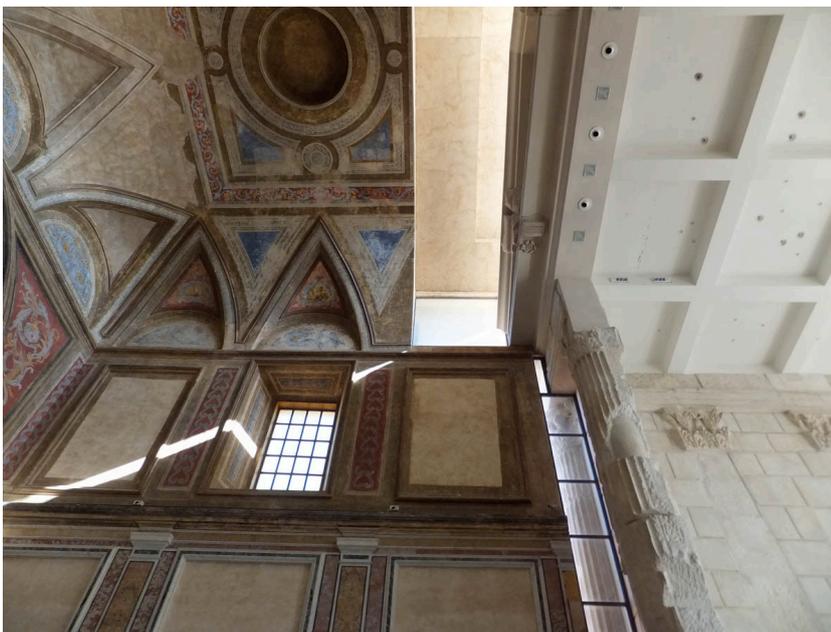
大聖堂内部

ローマ神殿の神室とバロック聖堂内陣との境界。開口部上部の梁下にはダウンライトが設けられている。



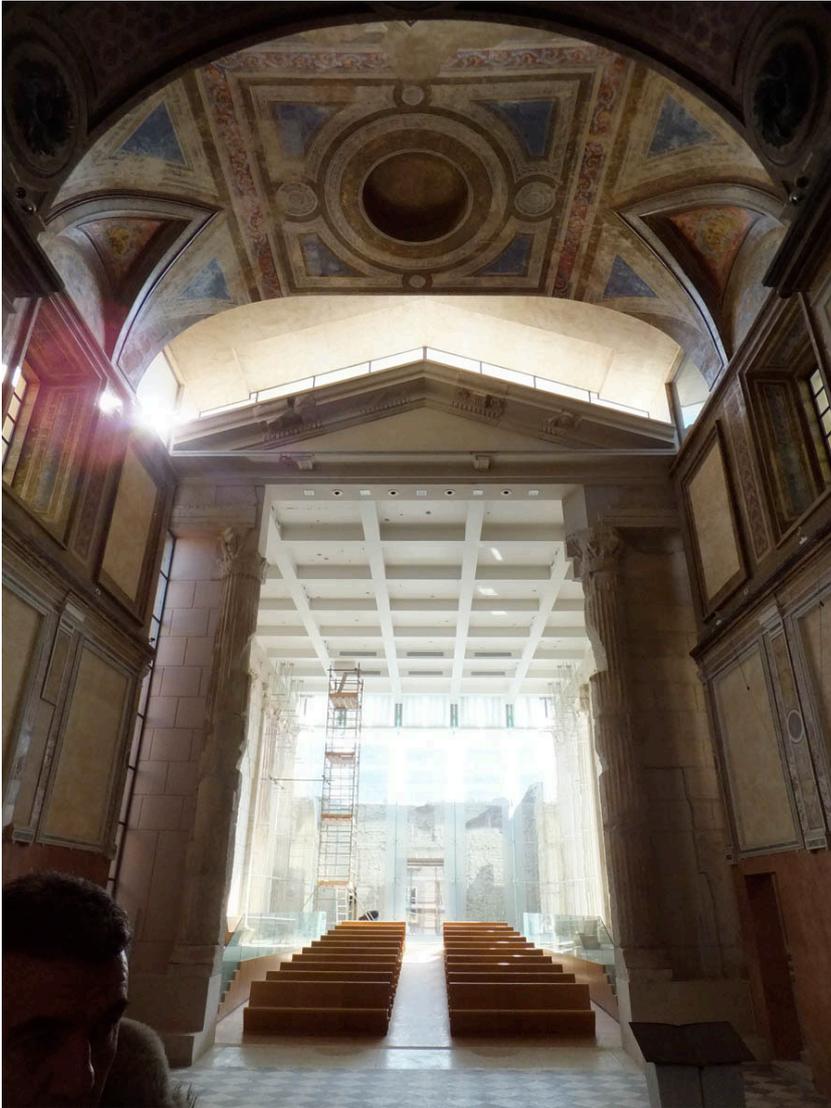
大聖堂内部

ローマ神殿の神室とバロック聖堂内陣との境界。信者席のベンチと床の勾配もここで終了する。信者席部分の床は木製フローリング仕上げ。神室の壁の位置には、ファサードと同様に壁体と円柱の位置と形状が記される。



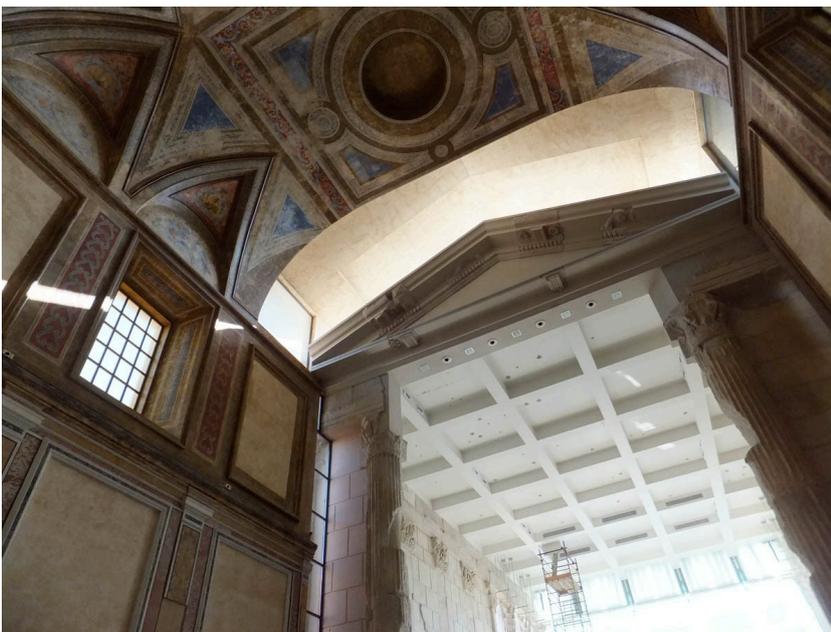
大聖堂内部

ローマ神殿の神室とバロック聖堂内陣との境界見上げ。内陣部の天井ヴォールトと共に壁にスリットを設けて、両者の区別を明確化している。



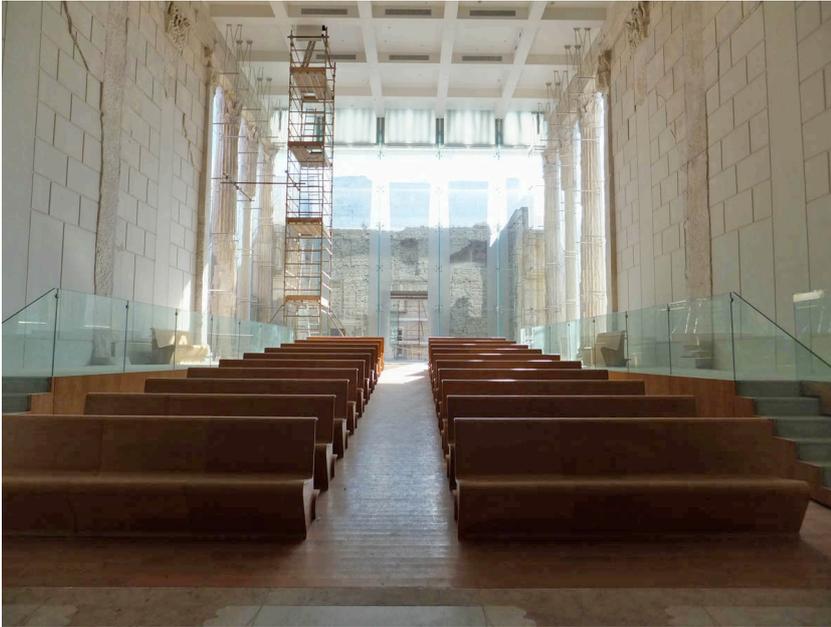
大聖堂内部

内陣部より大聖堂の身廊を見返す。残存するコーニスの破片を用いて復元された神殿のティンパヌム。ローマ神殿とバロック聖堂が明瞭に分離されながらも、一体の建築となっている。



大聖堂内部

削られたヴォールト天井部から、復元されたローマ神殿のペディメントを見る。



大聖堂内部

内陣より信者席を見返す。勾配をもつフローリングの床と木製ベンチ。



大聖堂内部

内陣部分。内装は破損部分を無理に補うことなく、断片として見せながら修復している。祭壇および説教壇は新たにつくられたもの。



大聖堂内部

内陣裏の聖堂参事会室。現在、修復中。



大聖堂内部

聖堂参事会室の天井ヴォールト。歴代司教の姿が描かれている。火災後の痛みが目立つ。



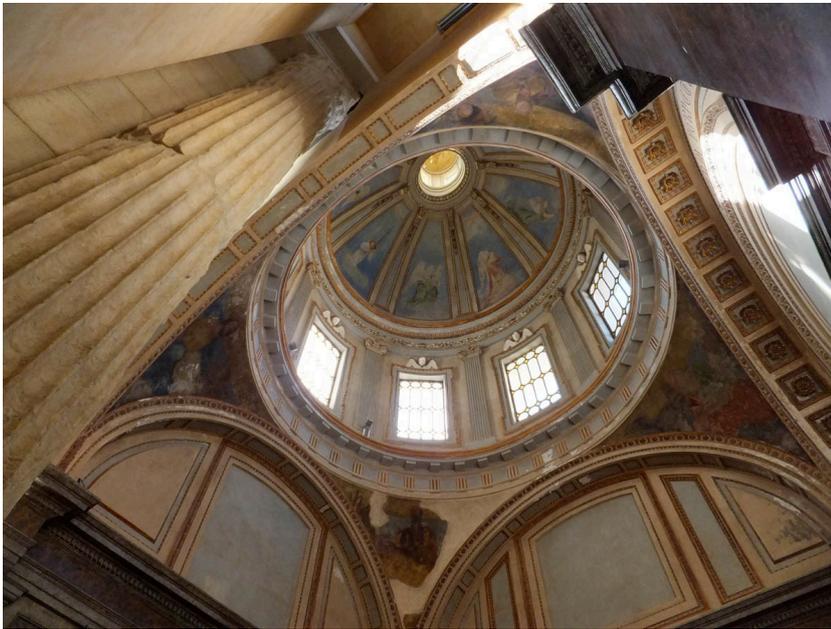
大聖堂内部

聖堂参事会室横にある石造のらせん階段。



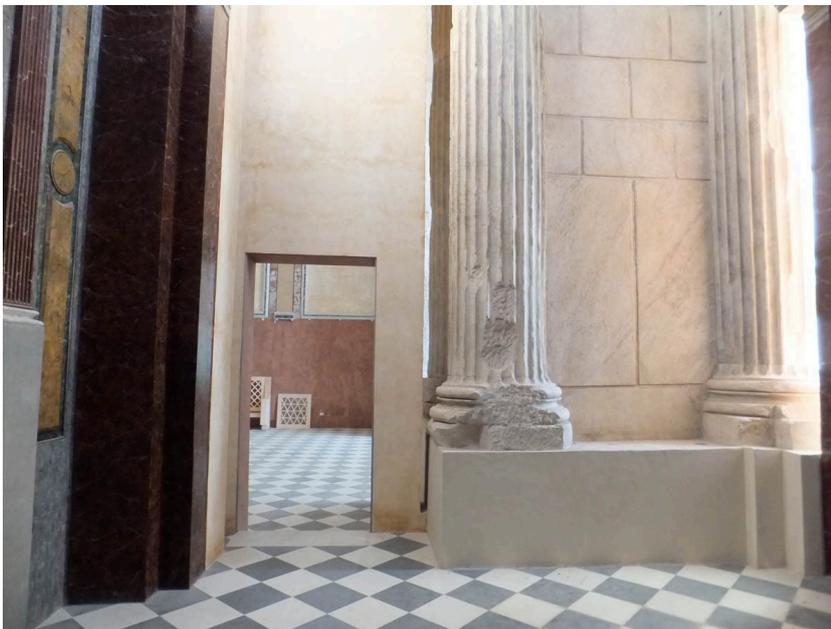
大聖堂内部

SS. サクラメント礼拝堂。ペンデンティヴ・ヴォールトの背後に、発掘されたローマ期の円柱が見える。円柱は建物がもつ複雑な歴史的積層を解読するための材料として供される。



大聖堂内部

SS. サクラメント礼拝堂。円柱とヴォールトとの関係。



大聖堂内部

礼拝堂と大聖堂内陣とのつながり。礼拝堂には新に、中央に洗礼用泉水桶が置かれる予定。



大聖堂内部

大聖堂から司教館、聖具室へとつながるガラスの渡り廊下。梁、床板共にガラス製。



大聖堂内部

ガラスの渡り廊下詳細。司教館側から大聖堂へのアクセスを見る。



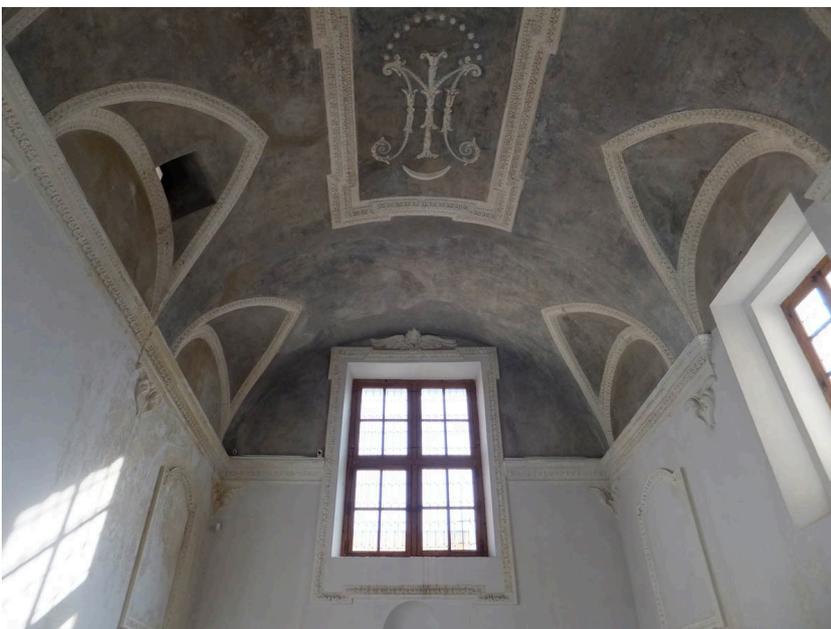
大聖堂外観

ローマ神殿の基部。復元された円柱間に設けられたガラス壁との取り合い、基部の壁面にはオプス・レティクラトゥムが視認される。



大聖堂内部

ガラスの渡り廊下からアクセスする聖具室。修復中。



大聖堂内部

聖具室の天井ヴォールト見上げ。



大聖堂外観

渡り廊下側から見返した，司教館側の建物側面。大聖堂と発掘されたローマ期の地表レベル、既存街路との関係が分かる。



大聖堂内部

大聖堂地下に残る，共和制期のカピトリウム（ユピテル神殿）の基壇。トゥーフオ（凝灰岩）の巨石ブロックによる構成。大聖堂の床スラブを支える鉄骨梁が上部に架かる。ここは見学コースになる予定。



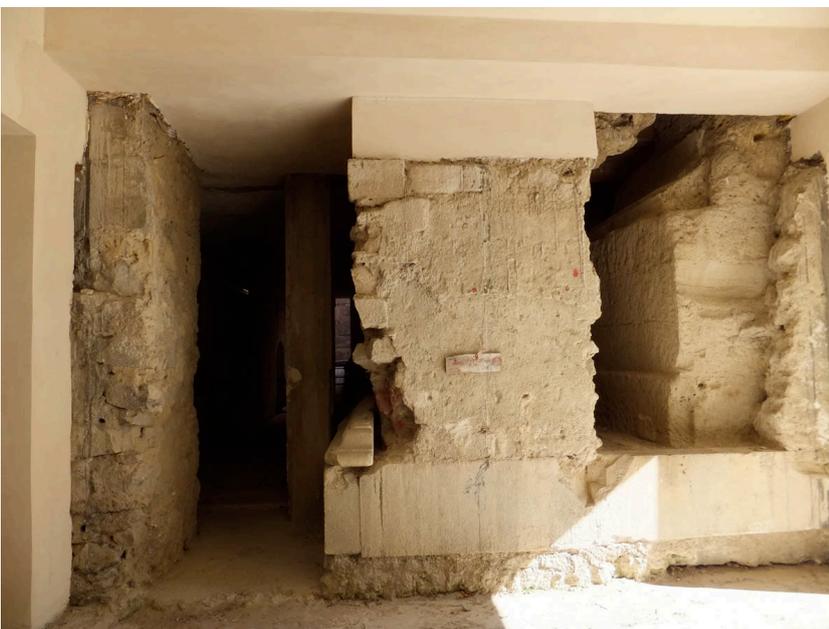
大聖堂内部

大聖堂床スラブを支える鉄骨梁の詳細。中央部にレベル差を設けて、床の勾配をつくる。



大聖堂内部

カピトリウムの遺構と発掘された建物の断片。



大聖堂内部

SS. サクラメント礼拝堂下のピロティからみる、カピトリウムおよび他の遺構。



大聖堂内部

SS. サクラメント礼拝堂下のピロティから、大聖堂のファサード方向を望む。



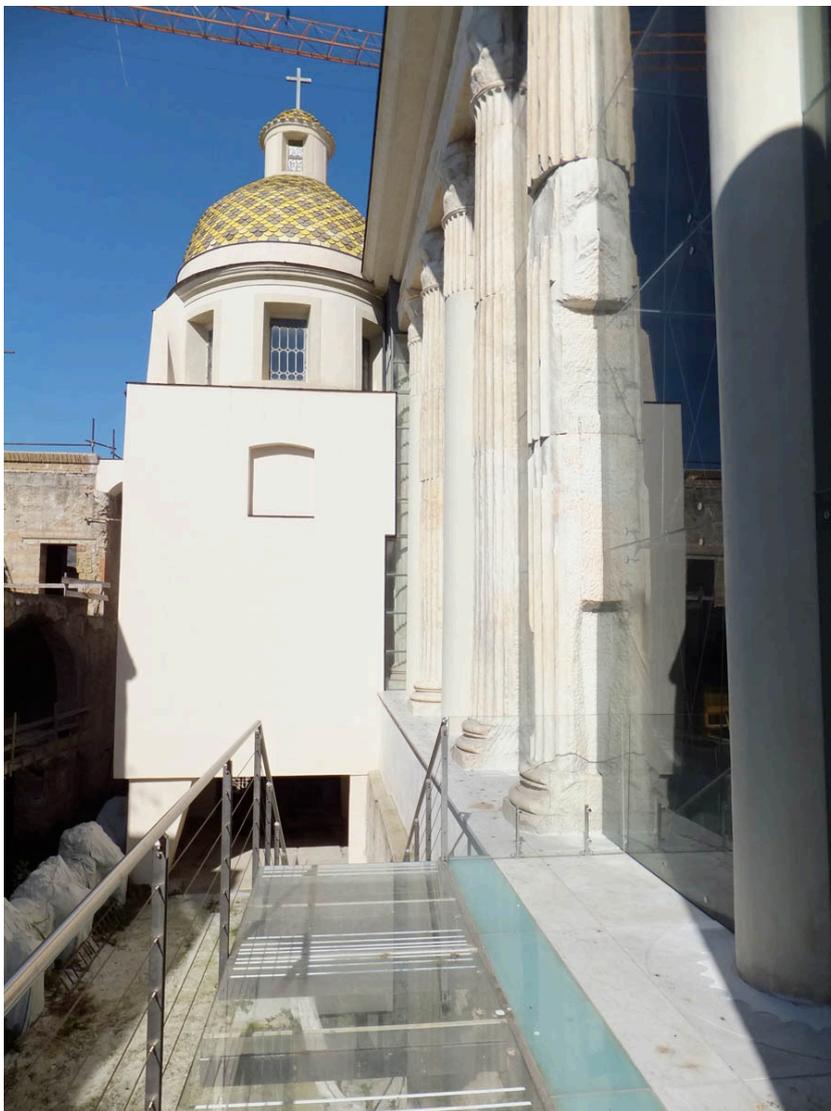
大聖堂内部

ローマ期の地表レベルから見たSS. サクラメント礼拝堂。



大聖堂内部

大聖堂側面に設けられた、ローマ期の地表レベルにアクセスするためのガラス製の階段。



大聖堂内部

大聖堂脇の階段から SS. サクラメント礼拝堂を見る。ローマ神殿と礼拝堂はスリットを設けて分離されている。